
その恋愛、題名は無く

外

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

その恋愛、題名は無く

【Nコード】

N4530F

【作者名】

外

【あらすじ】

割と生々しい美しくない、恋愛模様を描いております。こういう人間もいてああいう人間もいる。割とオタクな彼と若くして人格形成が歪んだ女の子の物語です

第一幕 出逢ったんね（前書き）

上から目線と流し読み推奨です

第一幕 出逢ったんね

信用、感情、愛、献身、心、そして世界……

いつしかこんな物々しい言葉でしか自分を表せなくなってしまった
…こんな世の中

俺の彼女の小説の出だしだ。

彼女の事は好きさ、そりゃ俳優の小雪さんや、松雪泰子さんみたいにキレイっていうような子じゃないよ。

バカな俺だって好きなタイプぐらい昔からあるさ。

巨乳、可愛い、風になびくような長髪、長身、そしてさわり心地楽しいある程度の筋肉質……まあ、容姿はこんなモンか。性格は清楚！活発！いじらしい！

………長いな、簡潔に！より男性諸君に解り安く言うなら！ティ
ア！

あゝ、あんな可愛い子と付き合ってみたい。様々な妄想が膨らむような女の子。

でも、俺の目に写るのは、あの子しか居ない。

高校一年生、名前は並木真理。性別は女。

長女。両親は離婚、母親に引き取られこちらの土地に来了。兄弟は含めて六人、内の一番下とその一つ上の妹を連れている。あちらに居る兄弟は全員男の子らしい。さらに両親の父親は本当の親でなく、彼女は母親の連れ子だ。

連れ子という理由で義理の父親の嫉妬ぎやくたいを受けていたが、下の兄弟には長女として接してやれてる。

俺は彼女を理解したい。もっと知りたい。
この気持ちは恋では無く勘違い……かな。

4月26日

始業式から始まり今日の昼休みに至る。最初は同じ学校から登ってきた知り合いに会いに行く人達ばかりだったが、はた目から見ても関係が混じりあっていつているのが解る。

でも、俺は一人。なぜだか昼休みに限って。

人のグループに混じりに行くのもなんだか今更って感じだし、自分の趣味のグループに似ているのもある。あるが……

くっ……！確実にモテないっ……！

あゝ、もう別に良いよう。一人で悩んでやるよ。おかんの弁当は冷食【冷凍食品】ばかりでうまい……のか？

など……特別な理由など有るはずもない葛藤によって自分自身を右往左往していた。

でも、そんな俺だつて人目は気にするさあ！話しかけられたらしっかり答えるよ！！ねえ！でも中学にも友達いなかった！あゝ、彼女欲し。

っゝか、あれよ、何が？ナニしてえよな。うん。彼女つつたらナニだろ。ナニだよな。

うお！結局昼休み終わりじゃん！

あゝ、だる。英語なんて丸めてポイ捨てしちゃいなさい！おやすみ………またしてもか、朝昼晩夜中……結局なんにも頭に残る事なんて無い。

下校時は本当に無駄な事ばかり考えていた

毎日毎日僕は……鉄板……？てっばんじゃないよな。俺はたいやきじゃねえし。じゃなんだ？ん……あつ、夕日眩し。おい……西日……チカチカすんだろ……が。あれ？何考えたんだっけ？うお……正門とこに人たまんじゃねーよ。はは、人がゴミのようだっ！

「佐藤くん？」

僕はニヤニヤしながら振り向いてしまった。

女…しまったああ！あだ名がにやけ系になってしまっ！真顔！真顔にいつつ！

「にい」

にいいじゃねえだろおが！男の低い声の【にい】はあああ………！

………こんな状況で今気がついた、女子は一人ではなく………三人。

「ぷっ」

「ふふっ」

サイドに笑われてるよ。おい、サイド同士目えあわせてんじゃねえよ。真ん中の子見てるよ。俺の欲しかった真顔だよ。

「ちよつと…良いかな？話があるんだけどお…」

真ん中の子が言った。

俺の目を見て言った。眩しい、オレンジ色の西日よりも俺の事しか目に入っていない……

なんてね、眩しくないのかな〜としかとらえない。とりあえずジェットストリームアタックは踏んで逃げなければ。恥は上塗りたくない。

自転車の鍵を外し

「ごめん、どいて貰えるかな？」

サイドが腕を組み言う

「ちよつとだけじゃん、ねえ？良いんじゃない？」

「佐藤君でしょ？ね、お願い？」

顔見せたくないんですよ！変な事口走る顔と名前覚ええないで！

「来てっ…！」

うつむき加減の真ん中に急に腕を引っ張られる。カゴに収めたりユック引っ張り出し引きずられる様に連れていかれる。

「ちよつ！何？話ってここで良いよ！聞くからさ！」

それに続きサイドもついてくる。今度はあっちがニヤニヤしだした。何？何なんですか〜！絶対何かある！ニヤニヤは絶対ある！この女

……どこまで引っ張る！この話も！

「ねえ、ここで良いんじゃない？」

「ここで良いよ」

うわ、人っ気無い。この学校にこんな場所あるんか。

真ん中が腕を離す、離す間に掴んだ部分のシワを撫でて直す。

ちけえ、離れた場所からこっち向くな。顔近いから。目を見るなよ。今度は俺が少しうつむく。

風がこの場所に音を作る。木々で落ち葉で……沈黙。俺、思考停止。真ん中が目をそらし口を開く。

「あのさ……佐藤君って、好きな人いるの？」

俺、思考始動。

くくくくっ！？俺！思考迷走。

「あえっ！いや、居ないっていうか！」

っていつかつて！変やないか……い

「ホント？ねえ？あたしの事好き？」

そっちも思考迷走入りやないか……い

ふとした脳内ツツコミが逆に俺を冷静にした。きっと、人生わりと

ノリツツコミだ。

冷静に聞いてみる。

「え……？それさ」

真ん中は耳を赤くして目を潤ませうつむき頷く。

はじめてのくくくおるすばっじゃねえ！逆告白！

「えっ……」

思わず声が出てしまった。心臓が高鳴る。口ん中が熱い。いや、息か？

……こんな瞬間、相手の気持ちを考えて言葉を選び、行動に出来るのが大人なのだろう……か。

が、俺は違った！あくまでも自分！

そういう事か、サイドは証人。尚且つプレッシャーですか。振られれば俺が悪人ですか？真ん中が公衆の面前で男の腕を女が引っ張る

という行為までした行動を俺が踏みにじるのが…犯罪ですか？

良いでしょう遊びで割り切りますよ。嘘なんてのは真実に埋もれさせれば嘘じゃなくなるのさ。

「んゝ、良いよっ!」

造り笑顔を真ん中に渡す俺。

他人には…理解出来ない

………恋愛

第一幕 出逢ったんね（後書き）

読者の方々お付き合い頂き頭を地面より深く深く突き刺してまで詫
びたいです。

もう実際にそうします

何か物言い、感想などありましたらお願いします

第2幕 恋は盲目（前書き）

酒飲んで書いたのでノリが悪く駄文です。流し読み推奨なのでよろしく願います。

第2幕 恋は盲目

告白された後については、もう一般的な恋人どうり。互いを知り合う為にある程度の距離を一緒に下校。

他愛無い会話とは裏腹に彼女は

「あれ？並木さんの家って俺んちの近くなの？」

「違うよ！近く無いけど近道あるんだ」

もう少し後になるが、彼女は電車通学では無いにしろ、俺の家とは全く逆の方向と距離なのを知る。

並木と付き合うと決まり、お互いの携帯の番号とアドレスを交換しあい

「また明日ね」

に対し俺は

「じゃあね」

と返した。

家に帰り飯と風呂を済ませ、日課としていた『牧場物語64』なる鈍速人生に没頭しようとした…がやはりここはメールでしょう！彼女にいい！

が、いざ打とうとなると

こんばんは笑い顔

しか打てねえ。打てねえ打てねえ。あゝん、もう良いよ鈍速人生にリアルの時間を浪費しようかな。

と思った時に、並木からメールが届く。内容は一発目俺には衝撃的なものだった

『今日さ、鈴木さんにメアド聞かれてたでしょ？どうも佐藤君の事好きっぽくて。焦って告白しちゃたんだ（汗でもOK貰えて嬉しかった（笑』

ん〜！ハイハイ！どう返信したら良いんデスかぁ！？知らぬ間にモテ期デスねえ！鈴木さんぶすデシタねえ！否が応でも並木さん！アナタを選びマシタねえ！これは俺の考えだか…
恋心は永久に科学的には解明出来ない。

俺は

『そうなんだ（笑知らなかったよ（笑俺達付き合えて良かったね

鈴木さんには告白されても付き合わなかったよ（笑

このメールに対して彼女は（何故？）を、多分…付き合い始めだから封印した。

その後に続いたメールは実に俺がI、my、me、mineを地で行く内容であつた。

彼女はそれ等に対して全てを聞いてくれた。

男は単純に、欲にばかり偉大さを求める。……女は違うよ。自分に偉大さを求めるから強いんだ。

二人の恋路は、テレフォンSEXならぬ卑猥なメールとガンダム話から始まった。

ワイワイ…

第2幕 恋は盲目（後書き）

誤字脱字文法間違い等は勘弁下さい。酒飲んで書きました。だけど
もご意見感想などは受け付けてます。失礼しました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4530f/>

その恋愛、題名は無く

2010年12月16日02時34分発行